

事業計画書

事業名	日高の里山再生と森林環境教育
枠の種類	分野指定枠（みどりと川の再生）
1. 事業の目的	<p>かつて地域住民の生活と密接な関係があった里山も、現代の生活スタイルでは「活用」とは程遠く、手入れがなされずに放置され、竹や篠などが繁茂し始めている。人の手が入らない山林は景観を損ねるばかりではなく、ゴミの不法投棄や、台風等の自然災害での倒木や、立ち枯れなどが発生し、危険な状態にもなっている。地域住民も近寄りたがたい場所となりつつある場所を手入れすることで、地域社会にも貢献する。</p> <p>また、整備を進める雑木林にて、県内の保育園、学童保育室など（1クラス単位おおむね30名程度）を対象として、森林環境教育を行う。</p> <p>林の保全体験や自然の遊びを通して、自然の中で活動する楽しみや心地よさ、自然の仕組みや生活との関連性、森林の役割などを学び、将来を担う子供達の、緑を守ろうという気持ちを養う。</p>
2. 事業で取り組みたい地域や社会の課題	<p>(1) 法人設立の目的・これまでの活動・成果</p> <p>①設立目的： 自然体験活動、学習活動、環境教育の交流活動、調査研究活動、子育て事業の5つの主たる事業を通して、子どもの生きる力を育む。</p> <p>②活動： 平成9年 入間川・荒川アドベンチャーカヌーツアー実施 平成10年より 日高市の平地林をお借りし、保全活動、環境教育開始 平成11年 埼玉県からNPO法人の認可を受ける 平成23年 「親子でチャレンジ!富士登山」以降4年間実施 平成24年 「森と川の親子園」以降6年間実施 平成24年より「自然体験指導者養成講座」を7年実施</p> <p>③成果： 平成9年 さいたま地球環境賞受賞 平成24年 第14回さいたま環境賞 県民部門受賞 平成27年度より 狭山市指定管理として学童保育室2ヶ所を管理運営 平成31年 彩の国埼玉環境大賞 奨励賞受賞</p> <p>(2) 課題 遺産相続や所有者の高齢化に伴い、かつて里山として地域社会のなかで活用されていた雑木林が、長年手入れがなされず、荒廃した山林になってしまった。そんな雑木林に再度人の手を入れ、整備すること</p>

	<p>で、地域住民の集う場所となり、憩いの場となるだけではなく、県内の子供達にも環境教育の場として活用することで、平地林の魅力を伝え、緑を守る気持ちを育むとともに、自然体験活動の普及に努めたい。</p> <p>親世代に自然体験の経験が乏しいため、その子供達ももちろん経験が少ない。また、自然の中で思う存分遊べるという環境も少なくなってきた。</p> <p>(3) 重要性</p> <p>体験を通してこそ、子供達に環境保全の重要性を伝えることができると考え、多くの子供達に体験の場を提供したい。</p> <p>県内にはまだ多数の平地林が残っているが、子供達が自由に活動できる場所はごく限られている。保全活動をすることで、里山の再生が行え、環境教育の場所としても活用することができる。</p>
<p>3. 具体的な事業内容</p>	<p>(1) 整備保全</p> <p>①主 旨：長年手入れが滞っていた山林を整備することで、里山を再生し、近隣住民の憩いの場とするとともに、環境教育を安全に実施できるようにする。</p> <p>②時 期：6月から2月</p> <p>③場 所：埼玉県日高市馬引沢地内（147、148、157、158）の雑木林</p> <p>④スタッフ：ボランティアスタッフと自然塾スタッフ及び高所枝打ち、高木伐採は専門業者に委託作業とする</p> <p>⑤回 数：年間で30日間程度</p> <p>⑥実施内容：間伐、下草刈り、枝打ち、枯損木の除去、竹篠の抜根、植樹、つる切り等。（竹や篠は重機をレンタルして抜根する）</p> <p>(2) 生物多様性保全のための調査</p> <p>①主 旨：今後の保全活動の指標とするために、現在の生物・植物の生息状況を確認、整備の範囲や度合いを決める。</p> <p>②時 期：6月から7月</p> <p>③場 所：埼玉県日高市馬引沢地内（147、148、157、158）の雑木林と隣接する畑や水路</p> <p>④スタッフ：けやの森自然塾スタッフ、一般財団法人 自然環境研究センター 里の生き物研究会</p> <p>⑤実施内容：植物、動物の基礎調査</p> <p>(3) 森林環境教育</p> <p>①主 旨：林の保全体験や自然の遊びを通して、自然の中で活動する楽しみや心地よさ、自然の仕組みや生活との関連性、森林の役割など、遊びを通し学び、将来を担う子供達の、緑を守ろうという気持ちを養う。</p> <p>②時 期：8月から1月</p> <p>③対象者：県内の保育園、幼稚園、学童クラブ、エコクラブなど</p>

④場 所：埼玉県日高市馬引沢地内、日高市中沢地内の雑木林

⑤スタッフ：自然塾のスタッフをはじめ、外部講師を依頼する

⑥参加見込み人数：各回25名×10回程度＝250名

⑦実施内容：

- ・森林内の散策と宝物探し（生き物、木の実、葉、等）
- ・落ち葉かき、チップ撒き、下草刈り、つる切り、ポット苗作り、植樹など参加者が直接関われる保全活動
- ・指導者（スタッフ）による間伐の様子の見学と、伐倒後の枝払いなど、参加者も一部体験できる保全活動
- ・指導者（講師）による生物の観察と解説
- ・冬季に行う間伐材を利用したキノコの菌打ち体験

4. 具体的な事業の実施計画

(1) 整備保全

(2) 生物多様性保全のための調査

時期	
6月	保全作業2回、生物多様性保全のための調査
7月	保全作業2回、生物多様性保全のための調査
8月	保全作業2回
9月	保全作業2回
10月	保全作業4回
11月	保全作業4回
12月	保全作業4回
1月	保全作業6回、委託作業
2月	保全作業6回、委託作業

(3) 森林環境教育

○ 参加者募集方法と広報計画

平成26年～30年の過去5年間に森林環境教育をのべ53回実施し、1551人が参加した。過去に参加した団体をはじめ新規参加団体を募集するために、チラシの配布、当法人ウェブサイトへ募集を掲載し、連携を図る。

○ 事業のスケジュール

時期	
6月	ちらしの作成と配布、消耗品の購入
7月	
8月	森林環境教育の実施1回
9月	森林環境教育の実施1回
10月	森林環境教育の実施2回
11月	森林環境教育の実施3回
12月	森林環境教育の実施2回
1月	森林環境教育の実施1回

<p>5. 個々の事業の実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<p>(1) 整備保全 長年手入れがなされず、倒木や立ち枯れの木が発生している箇所 1800 m²、竹、外来の草本類、木本類が多く発生している箇所 2400 m²を整備し、里山としての機能および景観を回復させる。</p> <p>(2) 生物多様性保全のための調査 対象地およびその周囲での動植物の調査を行い、調査報告書としてまとめる。報告書には生息確認種リスト、生息状況、位置の地図への落とし込みを行う。報告書は当法人ウェブサイトよりダウンロードして、誰でも閲覧できるようにする。</p> <p>(3) 森林環境教育</p> <p>① 参加人数 ・25名（子供23名、引率者2名）×10回＝250名程度</p> <p>② アンケート結果 ・参加者の満足度8割 ・実際に実施した森林環境教育のメニューに対してのアンケートを記入していただく。対象年齢が幼児～ということもあり、基本的には引率する保育士や教員への書面でのアンケートがメインとなる。ただし、参加者の直の声も大切なため、活動のまとめの時間に、口頭による参加者への聞き取りを行う。</p> <p>② 成果</p> <table border="1" data-bbox="517 1048 1358 1234"> <tr> <td>植樹（林で採取したコナラのポット苗）</td> <td>30本、3000 m²</td> </tr> <tr> <td>コナラのポット苗づくり</td> <td>30本</td> </tr> <tr> <td>枝拾い、落ち葉かき、間伐体験、つる切り等</td> <td>3000 m²</td> </tr> <tr> <td>キノコの菌打ち</td> <td>30本</td> </tr> </table>	植樹（林で採取したコナラのポット苗）	30本、3000 m ²	コナラのポット苗づくり	30本	枝拾い、落ち葉かき、間伐体験、つる切り等	3000 m ²	キノコの菌打ち	30本
植樹（林で採取したコナラのポット苗）	30本、3000 m ²								
コナラのポット苗づくり	30本								
枝拾い、落ち葉かき、間伐体験、つる切り等	3000 m ²								
キノコの菌打ち	30本								
<p>6. 事業の実施体制</p>	<p>① 総括責任者 理事長 佐藤朝代 ② 連絡責任者 理事 萩野努 ③ 現場責任者 理事 萩野努 ④ 経理担当者 石原紀子 ⑤ 広報担当者 須釜あゆ</p>								
<p>7. 来年度以降どのように事業を継続し発展させていくか</p>	<p>・今回の申請で購入する資機材を活用し、今後も継続活動していく。 ・すでに過去に同様の活動に参加した団体に継続して参加していただくよう、要請する。</p>								
<p>8. 今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること</p>	<p>・一般的にこのような活動は小学生以上が対象となるが、幼稚園、保育園などの幼児向けの指導案のノウハウがある。 ・里山の再生作業に参加できる。 ・子供が楽しめるような工夫がある</p> <p>過去に実施した内容として、木の実を探したり、生き物を探して観察したり、枝を拾ってたき火をしたり、林の中での遊びを通して、身近な疑問から、森林の持つ機能や人間との関わり、保全の必要性などを説明してきた。小学生には間伐や飯盒炊爨など、少し難易度の高い活動も取り入れ、実際に体験をしながら学習へとつなげていった。</p>								